

■概要

NICTは、知能科学領域におけるAI技術に関するオープンイノベーション型の戦略的な研究開発推進組織として、平成29年4月に「知能科学融合研究開発推進センター（AIS）」を設立し、連携推進室と連携研究室の2つの室を設置している。

AISでは、NICTが培ってきたデータ等を活用した産学

官が利用しやすい形での研究開発環境を整備するとともに、社会実装まで見据えた外部からのワンストップ窓口を提供することを目標としている（図1）。

平成29年度の重点的研究開発課題は次のとおりである。

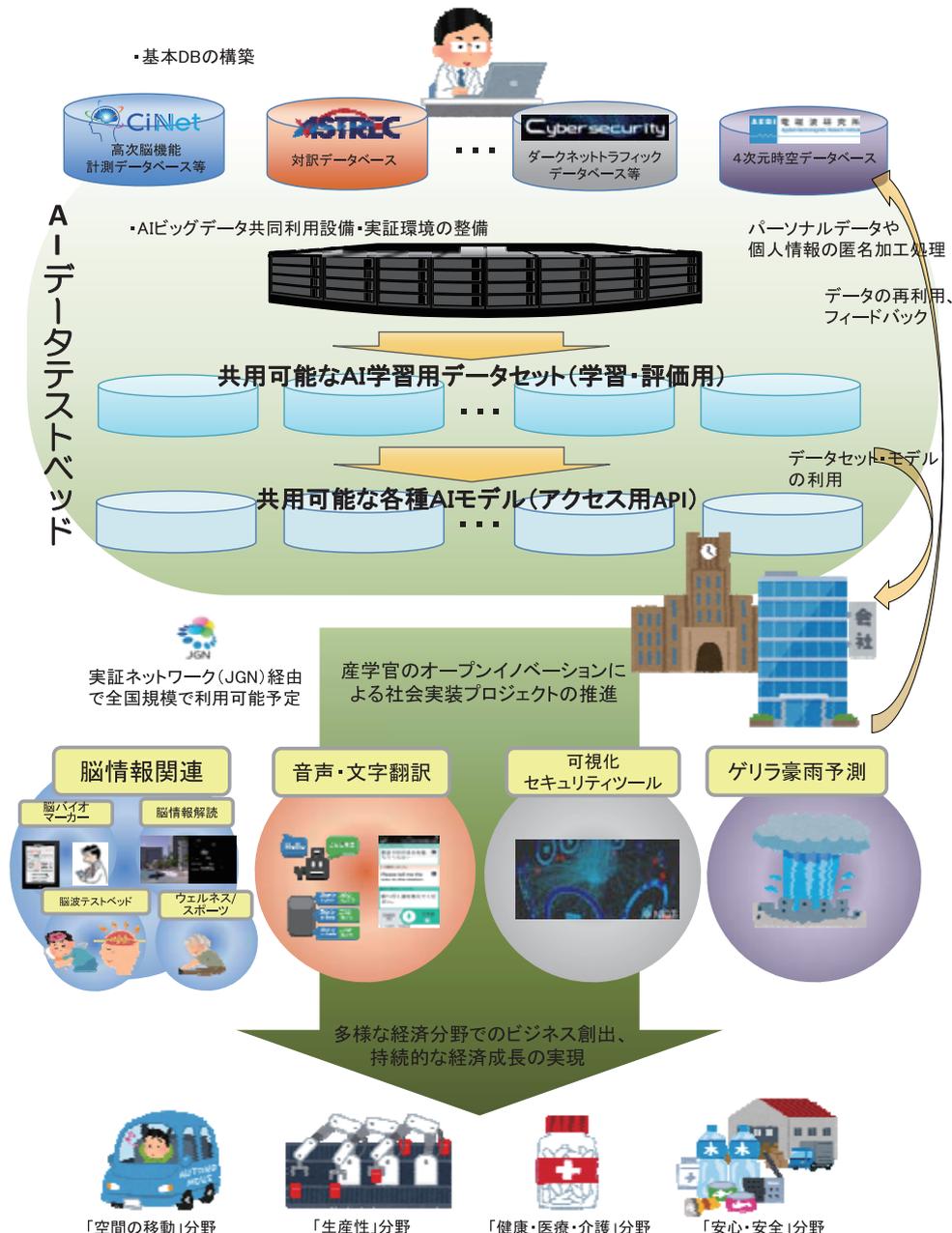


図1 「知能科学融合研究開発推進センター（AIS）」のイメージ図

- ・AIデータテストベッドの構築

NICTがこれまでの研究開発を通じて蓄積してきた各種AIデータを、超高速研究開発ネットワーク（JGN）を通じて全国規模で利用可能とし、AI関連の研究開発や実証を加速する「最先端AIデータテストベッド」の構築に着手する。

- ・オープンイノベーション型研究プロジェクトの推進
産学官の連携や機構内部のAI関連の研究連携を強化し、オープンイノベーション型の研究プロジェクトを推進する。

■主な記事

AIS全体の活動における主なトピックスを示す。

1. 組織の立ち上げ・体制整備

NICTの第4期中長期計画に掲げるオープンイノベーション創出に向けた取組をAI関連分野で推進するための拠点として、また、政府の取組であるAI技術の研究開発とその産業化による経済成長に向け、外部との連携を促進するための核となる組織が必要であった。これらの流れを背景として、知能科学融合研究開発推進センターは設立された。

設立初年度は人的リソースの確保に努め、設立当初は7名だったが、平成29年度末には兼務者を含め25名にまで体制を整備した。また、リサーチアシスタント制度（大学又は大学院に在籍する者を、機構の指示の下に行う研究補助業務に従事する者として採用する制度）の提案・新設に協力し、3名を採用した。他方、認知度向上にも努め、AISのロゴを作成（図2）するとともに、NICT広報誌（NICT NEWS 2018 No.2）において「AI分野でのオープンイノベーション推進」として活動をPRした。

2. 「第2回次世代の人工知能技術に関する合同シンポジウム」の開催（図3）

人工知能技術の研究開発と社会実装を加速化するために政府の司令塔として平成28年4月に設置された「人工知能技術戦略会議」は、平成29年3月31日、総務省、文部科学省、経済産業省及びNICTを含む関係機関の取組を中心とする「人工知能技術戦略」を取りまとめた。

本シンポジウムでは、同会議における検討を踏まえ



知能科学融合研究開発推進センター

図2 AISロゴマーク



図3 「第2回次世代の人工知能技術に関する合同シンポジウム」会場内の模様

て、最近の人工知能技術の動向や、研究開発、社会実装、人材育成、データ整備、ベンチャー支援等に関して、我が国の今後の人工知能技術に関する戦略を多角的に議論するために有識者にご登壇いただき、NICTがホストとして開催した（平成28年4月に続き2回目の開催）。

冒頭、3省の各大臣政務官による主催挨拶及びフォトセッションに続き、総合科学技術・イノベーション会議及び大阪大学から共催挨拶が行われた。その後、人工知能の将来展望や戦略など講演4件と対談1件、文部科学省等主催の「AIチャレンジコンテスト」表彰式、「我が国の人工知能技術の研究開発及び社会実装の推進方策」、「AIベンチャーの育成に向けて（AIスタートアップの成功の条件）」と題した2件のパネルディスカッションが実施され、参加者500名を超える大盛況のうちに終了した。

3. AI関係政策提言等の議論への参加

COCN（（一社）産業競争力懇談会）、DiTT（（一社）デジタル教科書教材協議会）等、AI関係政策提言等の議論に参加し、外部との連携に努めた。